



熊本地震から5年

熊本教区が物故者追悼法要

2016年4月14日、16

日、2度にわたって最大震度7を記録し、九州全域に甚大な被害をもたらした熊本地震から5年。熊本教区（宮川善裕教務所長）は4月6日、熊本市中央区の熊本別院で「平成28年熊本地震物故者追悼法要」を営んだ（写真）。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、職員と教区役職者など少数で法要をつとめ、動画共有サービス・YouTubeでライブ配信した。

法要後、自らも被災した吉村隆真さん（熊本市南区・良覚寺住職）が法話を行った。同寺は本堂が大きく傾き、山門の支柱が折れるなどの被害を受けた。吉村さんは、度重なる余震の中で、避難所で過ごすしながら片付け作業を行った日々を振り返り、「こんなにも1滴水が尊く、家族との時間を愛おしいと思う日々があったらどうか。失ったもの

代償として幸せとは何か考える機会を与えられた。死は、早かれ遅かれ必ずやってくるが、今生の別れは永遠の別れではない。先だって往かれた方々は、仏さまの姿となって私たちを守り導いてくださっている」と話した。

自宅で法要を視聴した同別院門徒の梅田キミヨさん（76）は「大きな揺れが続き恐怖を感じたこと、亡くなられた方を思い出し、涙が出た。5年が経ち復興は進んでいるが、今も小さな地震が頻繁に続き、いつ大きな地震が起きるかわからない。枕元には懐中電灯、常に携帯電話を近くに置かない。身の安全を守る対策をしている。今日はオンラインで参拝できて本当にうれしかった」と話した。

動画は、同教区ホームページ（<http://hongwanji-kumamoto.gich.net>）で見ることができるとのこと。同教区では、地震により、241カ寺が被害を受け、本堂全壊や大規模半壊した46カ寺のうち、現在23カ寺が再建・修復を完了した。